

教科 科目	国語 国語総合（現代文）	学 年	4年	単 位	2単位	担 当	岩崎 勇太
【科目の概要】							
近代以降の評論や小説、詩歌を学習していくなかで、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てていくことを目的とします。							
【育成をめざす学力】							
① 自学（予習・復習など）できる力							
② 語彙・文法に関する基礎的な力と、それをふまえた比喻や象徴表現を理解する力							
③ 多様なテキスト（評論・小説・詩歌）を、ジャンルに応じて読解する力							
④ テキストの内容を自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力							
⑤ 出題形式に応じて解答できる力（問いと答えの照応力）							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、事前に予習を行うことができる。 ・必要な語彙が身についている。 ・文章構成・展開を理解することができる。 ・筆者の主張を捉えることができる。 ・登場人物の心情や、その心情を背景（コンテキスト）の中で読み取ることができる。 ・設問に過不足なく答えることができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	現代文入門						
5月	傍線部問題の原則と解法						
6月	小説Ⅰ「羅生門」						
7月	評論Ⅰ「マルジャーナの知恵」						
8月	表現「手紙を書く」						
9月	評論Ⅱ「マンモスの歩いた道」						
10月	短歌「白鳥は哀しからずや」						
11月	俳句「万緑の中や」						
12月	小説Ⅲ「富嶽百景」						
1月	評論Ⅲ「働くことの意味」						
2月	評論Ⅳ「世界中がハンバーガー」						
3月	表現「絵や広告を読む」						

教科 科目	国語 国語総合（古文）	学 年	4年	単 位	2単位	担 当	岩崎 勇太
【科目の概要】 「国語総合」の中の古文の基礎を学んでいく科目です。さまざまな古文の文章を読むことで、人間・社会・自然などについて、自分の考えを深めていきます。また、語句の意味・用法・文法など古文を読むための基礎的な知識を理解し古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴をとらえられるようにします。伝統的文化や言葉を大切にしながら、生活様式や、美意識、価値観を学び、その生き方を豊かに広げていく一助としていきます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（韻文・物語文・随筆思想・史伝など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 入試の出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・古文の音読ができる。 ・古文の正確な現代語訳ができる。 ・古文の詩歌の解釈ができる。 ・作者の執筆意図を理解できる。 ・作品に描かれた思想・感情・文化を理解できる。 ・古典世界と現代との関連性を見出すことができる。 ・文学史を理解できる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	宇治拾遺物語「児のそら寝」						
5月	①主語同一・転換法則 ②会話文・心中表現文						
6月	徒然草「奥山に猫またといふもの」「ある人弓を射ることを習ふに」						
7月	徒然草「花は盛りに」						
8月	伊勢物語「芥川」						
9月	伊勢物語「東下り」「筒井筒」						
10月	平家物語「富士川」「巴」						
11月	平家物語「能登殿の最期」土佐日記「門出」						
12月	土佐日記「帰京」						
1月	奥の細道「旅立ち」「立石寺」						
2月	万葉集・古今和歌集						
3月	新古今和歌集 問題演習						

教科 科目	国語 国語総合（漢文）	学 年	4年	単 位	1単位	担 当	野見山 和也
【科目の概要】 漢文の訓読の決まりを身につけて、音読ができるようにしていきます。語句・句法などを理解し、現代語訳や解釈・鑑賞ができるようにします。また漢文作品を読むことで、漢文の文章の特徴を知り、人間の生き方・中国の歴史・思想などについて自分の考え方を深めていきます。先人たちの価値観や考え方を学び、文化を継承していく姿勢を身に付けていきます。							
【育成をめざす学力】 ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（漢詩・物語・随筆・思想・史伝など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 出題形式に応じて解答できる力							
【評価基準・評価項目】 ・漢文の音読ができる。 ・漢文の正確な現代語訳ができる。 ・漢詩の解釈ができる。 ・登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答ができる。 ・作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解し、表現できる。 ・漢文の世界と現代との関連性を見出すことができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月5月	漢文入門						
6月	漢文入門 故事「守株」						
7月	故事「守株」「蛇足」						
8月	唐詩 絶句						
9月	唐詩 律詩						
10月	十八史略「鶏口牛後」						
11月	十八史略「臥薪嘗胆」						
12月	思想 「論語」						
1月	思想 「不忍人之心」（孟子）						
2月	文「愛蓮説」						
3月	文「兼山遠慮」 漢文句法・語彙の復習						

教科 科目	世界史 B	学 年	4 年	単 位	2 単位	担 当	宮 直 樹
【科目の概要】 国際紛争、環境問題、人口問題、経済格差など、現在世界的な視野からの解決が求められる課題が山積している。問題解決には民族・宗教・ことばなど文化の違いを越えた対話と相互の文化理解が前提となる。文化は歴史に影響を受けており、また現在の課題も過去の延長線上に発生している。私たちが幸せな未来を志向するほど、歴史の学びは大切となる。4年の世界史では、主権国家や市民社会の成立からその帰結としての帝国主義までの世界史を学ぶ。この学びを通じて人々が何を目指し、何をやってきたかを考え、評価し、あるべき未来社会を描く。							
【育成をめざす学力】 ・近代史を理解するために必要な基本用語を習得する力 ・学習内容を整理し、「人間理解」「社会認識」に関する近代世界の地域・時代別の特性や普遍性を理解する力 ・学習内容を具体例として、「人間理解」「社会認識」に関する近代世界の地域・時代別の特性や普遍性を説明する力 ・学習内容を自己の関わりからとらえ、近代世界における「人間理解」「社会認識」のあり方を推断し、評価する力 ・自己の価値観から現代社会を分析し、近代世界の歴史が与えた影響をふまえて社会課題に対する解決策を提示する力 ・学習活動を通じ、世界史学習の意義を理解し、学習への興味・関心を喚起する力 ・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力							
【評価基準・評価項目】 ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） ・単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②） ・各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） ・学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） ・学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） ・学習過程を通じて、世界史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦）							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	郵送課題（ルネサンス）						
5月	オンライン授業（大航海時代）						
6月	近代ヨーロッパの成立と主権国家体制の展開 ～15世紀から18世紀の世界 （単元18）ルネサンスと大航海時代						
7・8月	（単元19）宗教改革とスペイン・イギリスの絶対主義 （単元20）絶対主義諸国の国際関係						
9月	（単元21）イギリス革命と植民地戦争 （単元22）17～18世紀のヨーロッパ文化						
10月	欧米近代市民社会の成長 ～18世紀の世界 （単元23）産業革命とアメリカ独立革命 （単元24）フランス革命ナポレオン戦争						
11月	欧米近代国民国家の発展 ～19世紀の世界 （単元25）ウィーン体制と自由主義・国民主義						
12月	（単元25）ウィーン体制と自由主義・国民主義 （単元26）イギリス・アメリカ主義の進展とロシアの近代化						
1月	（単元26）イギリス・アメリカ主義の進展とロシアの近代化 （単元27）19世紀のヨーロッパ文化						
2月	帝国主義とアジア世界 ～19世紀末から20世紀初頭の世界 （単元28）近世アジア帝国の動揺						
3月	（単元29）帝国主義諸国のアフリカ分割						

教科 科目	現代社会	学 年	4 年	単 位	2 単位	担 当	古賀 倫子
【科目の概要】 現代の社会では、日々様々な問題が生じている。今動いているこの社会に生きている私たちは、人間として何を考えどのように行動すべきなのだろう。私たちをとりまく社会・政治・経済・そして、文化における問題を理解し、様々な課題を発見し解決への一歩とするために、現代社会を学んでいく。4 学年では、①「現代の民主政治と日本国憲法」、②「現代の経済社会と国民生活」についての理解を深めていく。							
【育成をめざす学力】 <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を理解するための、政治機構・経済体制・文化の基本用語を習得する力 ・現代社会特徴や機構を現実の具体例から把握する力 ・現代社会の現状と課題について、根拠を示して評価する力 ・現代社会の諸事象の課題解決の方法を社会事象や自己のあり方から考察する力 ・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力 							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①） ・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②） ・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③） ・現代社会における「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③） ・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤） ・学習過程において図版、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④） ・学習過程において必要な情報を収集し、図版、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤） ・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥） ・学習過程を通じて、現代社会を学ぶ意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦） 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4 月 5 月 6 月 7 月	第 2 部 2 現代の民主政治と日本国憲法 第 1 章 現代国家と民主政治 ・民主政治の原理と発展 ・世界の政治体制 など 第 2 章 日本国憲法の基本的性格 ・日本国憲法の制定 ・基本的人権の保障 ・平和主義とわが国の安全 など						
8 月 9 月 10 月 11 月 12 月	第 3 章 日本の政治機構と政治参加 ・日本の政治機構 ・国会・内閣・裁判所 ・地方自治と住民福祉 ・政党と選挙・政治参加と世論など 第 2 部 3 現代の経済社会と国民生活 第 1 章 現代の経済社会 ・資本主義の特徴・ ・市場のしくみ ・現代の企業 ・企業と市場機構 ・国民所得 ・金融・財政						
1 月 2 月 3 月	第 2 章 日本経済の特質と国民生活 ・日本経済のあゆみ（1）（2） ・中小企業と農業 ・消費者・労働問題 ・公害の防止と環境保全 ・社会保障の役割 など						

教科 科目	数学 数学 I	学 年	4 年 A B 組	単 位	3 単位	担 当	萱田 真史 出来 三博
【科目の概要】 中学まで扱ってきた数を実数として体系化し、2次方程式について解の公式利用までの解法を学び、応用として図形的な分析力の定着を図る。また実数解の有無について判別式を用いて考察する。2次関数では2つの数の対応と変化の関係を関数の概念を用いて把握・表現し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことに活用する。図形と計量においては初めて三角比を定義し、三角形の辺や角の間に成り立つ定理を導き具体的な事象の考察や計量に活用する。またデータの分析では、様々なデータを整理・分析し、相関を読み取り考察していく。本科目では数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。数学的なものの見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用できるようにしていくことが目標である。							
【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。 ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、 <u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A) ②色々な事象を数学的に考察して的確に <u>情報を取り出す力</u> (C)、 <u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け <u>問題を解決できる力</u> (BDE)・ <u>表現できる力</u> (F) ② 学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ <u>論理的に考える力</u> (D) ③ 学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に <u>活用する力</u> (G)							
【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか) 第1章 数と式 ①多項式の加法・減法・乗法 ②因数分解 ③実数・循環小数 ④根号を含む式の計算・有理化 ⑤3項からなる平方根の有理化 ⑥平方根を含む実数の整数部分・小数部分 ⑦対称式の値 ⑧2重根号 ⑨1次方程式・不等式・連立不等式 ⑩絶対値の方程式・不等式 ⑪命題と条件 ⑫命題と集合 ⑬必要条件・十分条件 ⑭命題の対偶 ⑮命題と証明 ⑯背理法 第2章 2次関数 ①「座標平面」の発明と「代数方程式」の関係 ②2次関数のグラフの頂点・軸・移動 ③2次関数の最大・最小 ④定義域・軸が動く場合の最大・最小 ⑤条件からの2次関数の決定 ⑥2次方程式の解法 ⑦2次方程式の解の判別式 ⑧2次方程式の図形への応用 ⑨2次不等式の解法 ⑩放物線とx軸の共有点の関係 第3章 図形と計量 ①三角比の定義 ②三角比の相互関係 ③余角・補角の定理 ④三角比の鈍角への拡張 ⑤三角比の対称式の値 ⑥三角比の2次関数の最大・最小⑦正弦定理・余弦定理 ⑧三角形の解法・測量問題 ⑨三角形に関する等式の証明・形状の決定 ⑩三角形の面積 ⑪ヘロンの公式 ⑫三角形の内接円・外接円の半径 ⑬四面体の体積 ⑭相似な図形の面積比・体積比 ⑮球の体積と表面積 第4章 データの分析 ①データの代表値 ②分散と標準偏差 ③データの相関							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	数 I	第1章：数と式 第1節 式の計算 第2節 実数					
6・7月	数 I	第3節 1次不等式 第4節 集合と命題					
8月	数 I	第2章：2次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式					
9月	数 I	第3節 2次方程式と2次不等式					
10月	数 I	第3章： 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比への応用					
11月							
12月							
1月	数 I	第2節 三角比への応用					
2月	数 I	第4章：データの分析					
3月	数 II	第1章：式と証明					

教科 科目	数学 数学Ⅰ(数Ⅱの一部)	学 年	4年C組	単 位	3+1単位	担 当	萱田 真史
----------	------------------	--------	------	--------	-------	--------	-------

【科目の概要】

第1章では最初に数を文字で置き換えた式を扱う学問である「代数学」の導入として、多項式の積や因数分解など、「式の算術」を学ぶ。次に、中学校までは漠然と捉えていた「数」を自然数⇒整数⇒有理数⇒無理数と分類し「実数」として体系化し、更にこれを「数直線」として「幾何的」(図形的)に捉えさせ、これらをもとにした方程式や不等式の解法を学んで「代数学」の入り口とする。また集合論を土台として、20世紀に生まれて発展した論理学(特に記号論理学)の考え方の入り口を学ぶ。第2章では、特に関数を扱う「解析学」の導入として「2次関数」を学び、「数直線」を発展させた「座標平面」と「グラフ」を導入し、方程式や不等式を関数の立場から捉えて「解析幾何」の入り口とする。第3章では、図形の解析的な捉え方の導入として「三角比」をその手段として学び、「正弦定理」「余弦定理」などを用いて主に平面図形の「代数的」「解析的」な分析を体験する。更に、ごく初等的ではあるが、平面図形にとどまらず、立体の体積や表面積を解析的に捉えることを学ぶ。第4章では、データの分析について学ぶ。
 以上のようなことから、本科目では初等数学の導入とし、数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

- ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を習得し活用できる力(A)
- ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力(C)、取り出した情報を表現できる力(C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力(BDE)・表現できる力(F)
- ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力(D)
- ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力(G)

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか)

第1章 数と式 ①多項式の加法・減法・乗法 ②因数分解 ③実数・循環小数 ④根号を含む式の計算・有理化 ⑤3項からなる平方根の有理化 ⑥平方根を含む実数の整数部分・小数部分 ⑦対称式の値 ⑧2重根号 ⑨1次方程式・不等式・連立不等式 ⑩絶対値の方程式・不等式 ⑪命題と条件 ⑫命題と集合 ⑬必要条件・十分条件 ⑭命題の対偶 ⑮命題と証明 ⑯背理法 **第2章 2次関数** ①「座標平面」の発明と「代数方程式」の関係 ②2次関数のグラフの頂点・軸・移動 ③2次関数の最大・最小 ④定義域・軸が動く場合の最大・最小 ⑤条件からの2次関数の決定 ⑥2次方程式の解法 ⑦2次方程式の解の判別式 ⑧2次方程式の図形への応用 ⑨2次不等式の解法 ⑩放物線とx軸の共有点の関係 **第3章 図形と計量** ①三角比の定義 ②三角比の相互関係 ③余角・補角の定理 ④三角比の鈍角への拡張 ⑤三角比の対称式の値 ⑥三角比の2次関数の最大・最小 ⑦正弦定理・余弦定理 ⑧三角形の解法・測量問題 ⑨三角形に関する等式の証明・形状の決定 ⑩三角形の面積 ⑪ヘロンの公式 ⑫三角形の内接円・外接円の半径 ⑬四面体の体積 ⑭相似な図形の面積比・体積比 ⑮球の体積と表面積 **第4章 データの分析** ①データの代表値 ②分散と標準偏差 ③データの相関

【年間指導単元・内容と学習活動】

4・5月	数Ⅰ	第1章：数と式 第1節 式の計算 第2節 実数
6月	数Ⅰ	第1章：数と式 第1節 式の計算 第2節 実数
7月		第3節 1次不等式
8月	数Ⅰ	第2章：2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式
9月	数Ⅰ	第2章：2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式
10月	数Ⅰ	第4章：図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用
11・12月		
1月	数Ⅰ	第4章：図形と計量 第2節 三角形への応用
2月	数ⅠⅡ	第4章：データの分析 第1章：式と証明
3月	数Ⅱ	第2章：複素数と方程式の解

教科 科目	数学 数学A	学 年	4年 AB組	単 位	2単位	担 当	上原 浩明
【科目の概要】 1章「場合の数と確率」では、図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し統合的にとらえることや具体的な事象の考察などを通して順列・組み合わせについて理解し、不確定な事象を数学的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し、処理できるようにする。3章「整数の性質」では、既習事項から新たな性質を見つけ出す過程を通して、発見や創造の仕方を学び、それらが活用できるようにする。							
【育成をめざす学力】 数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。 ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、 <u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A) ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力 (C)、 <u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、 熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け <u>的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・ <u>表現できる力</u> (F) ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ <u>論理的に考える力</u> (D) ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に <u>活用する力</u> (G)							
【評価基準・評価項目】 (下記の事柄を理解し活用することができるか) 集合と要素の個数 ①集合の意味 ②集合と要素 ③部分集合 ④共通部分と和集合 ⑤補集合 ⑥集合の要素の個数 ⑦倍数の個数 ⑧集合の応用 場合の数 ①樹形図 ②和の法則 ③積の法則 ④順列の総数 ⑤順列の考え方の利用 ⑥円順列 ⑦重複順列 ⑧組み合わせの総数 ⑨ ${}_nC_r$ の性質 ⑩組合せの考え方の利用 ⑪組み分けの総数 ⑫同じものを含む順列 ⑬重複を許して作る組合せ ⑭ $(a+b)^n$ の展開式 ⑮パスカルの三角形 ⑯二項定理 ⑰二項定理の応用 確率 ①事柄の起こりやすさ ②試行と事象 ③同様に確からしいときの確率 ④いろいろな事象の確率 ⑤確率の基本性質 ⑥余事象とその確率 ⑦一般の和事象の確率 ⑧独立な試行の確率 ⑨反復試行の確率 ⑩期待値 整数の性質 ①公約数と公倍数 ②整数の割り算と商・余り ③ユークリッドの互除法 ⑤1次不定方程式 ② 数と小数 ⑦n進法							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月 5月	数学A	準備集合					
6月	数学A	第1章：場合の数と確率 第1節 場合の数 (集合と要素の個数・場合の数)					
7月	数学A	第1節 場合の数 (集合と要素の個数・場合の数) 第2節 確率 (事象と確率)					
8月	数学A	第2節 確率 (確率の基本性質・独立な試行と確率)					
9月	数学A	第2節 確率 (独立な試行と確・率条件付き確率)					
10月	数学A	第2章：図形の性質					
11月	数学A	図形の性質					
12月	数学A	第3章：整数の性質 第1節 約数と倍数 (公約数と公倍数・整数の割り算)					
1月	数学A	第2節 ユークリッドの互除法					
2月	数学A	第3節 整数の性質の活用 (分数と小数)					
3月	数学A	第2節 整数の性質の活用 (n進法)					

教科 科目	数学 数学A (数Ⅱの一 部)	学 年	4年C組	単 位	2単位	担 当	萱田 真史
----------	-----------------------	--------	------	--------	-----	--------	-------

【科目の概要】

第1章の「場合の数と確率」では、まず、20世紀に生まれた「集合」の概念の導入を行う。次に、物の配列や組合せを体系的に数えあげることの学び、「集合」と「数え上げ」の2つを融合し「初等確率論」の入り口を学ぶ。第2章では、ユークリッド幾何学に見られる伝統的な「平面幾何」の入り口を学ぶ。以上のようなことから、数学Ⅰが代数学・解析学の導入であるのに対し、本科目では古代ギリシャ時代からの伝統を強く残す「平面幾何」、20世紀に生まれた「集合とそれに基づく記号論理学」、17世紀に生まれた「数え上げ」を行う「計算数学」、現代的な「確率論」の導入、また第3章では「初等整数論」といった、数Ⅰでは扱わない「数学」の大きな分野の導入の補填を行う。従って、本科目も初等数学の導入として、数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

- ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を習得し活用できる力 (A)
- ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力 (C)、取り出した情報を表現できる力 (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力 (BDE)・表現できる力 (F)
- ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力 (D)
- ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力 (G)

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)

第1章 場合の数と確率 (第1節) 場合の数 ①集合の意味 ②集合と要素 ③部分集合 ④共通部分と和集合 ⑤補集合 ⑥集合の要素の個数 ⑦倍数の個数 ⑧集合の応用 ⑨樹形図 ⑩和の法則 ⑪積の法則 ⑫順列の総数 ⑬順列の考え方の利用 ⑭円順列 ⑮重複順列 ⑯組み合わせの総数 ⑰パーミュテーション・コンビネーションの性質 ⑱組合せの考え方の利用 ⑲組分けの総数 ⑳同じものを含む順列 重複を許して作る組合せ **(第2節) 確率** ①事柄の起こりやすさ ②試行と事象 ③同様に確からしいときの確率 ④いろいろな事象の確率 ⑤確率の基本性質 ⑥余事象とその確率 ⑦一般の和事象の確率 ⑧独立な試行の確率 ⑨反復試行の確率 **第2章 図形の性質** ①内分と外分 ②三角形における角の2等分線と対辺の分点 ③三角形の内心・外心・重心・垂線 ④三角形の辺の長さの関係 ⑤三角形の角の大きさの関係 ⑥円周角・中心角(ターレスの定理等を含む) ⑦円に内接する四角形の性質 ⑧接弦定理 ⑨方べきの定理 ⑩2つの円の関係(位置・共通接線等) ⑪空間図形 ⑫多面体 **第3章 整数の性質** ①約数と倍数 ②最大公約数と最小公倍数 ③割り算、商、余り ④合同式 ⑤ユークリッド互除法 ⑥1次不定方程式 ⑦分数と少数 ⑧n進法

【年間指導単元・内容と学習活動】

4・5月	数Ⅰ	
6月	数Ⅰ	第1章：場合の数と確率 第1節 場合の数
7月		
8月	数Ⅰ	第2節 確率
9月	数A	第3節 確率 第2章：図形の性質 第1節 平面図形
10月		
11月	数A	第1節 平面図形 第2節 空間図形
12月		
1月	数A	第3章：整数の性質
2月	数Ⅱ	第1章：式と証明
3月	数Ⅱ	第2章：複素数と方程式の解

教科 科目	化学基礎	学 年	4年	単 位	2単位	担 当	山内 かな子 遠藤 康志
【科目の概要】 化学基礎では、化学の基本的な概念や原理・法則を理解するために、物質の構成・物質と化学結合・物質の変化を学びます。実験、観察を通して、化学的に探究する方法を身に付けます。それらの学びを日常生活に関連させ、化学への関心を高めていきましょう。そして、化学が未来に向けて何ができるかを考えていきます。							
【育成をめざす学力】 (1) 化学を日常生活や社会と関連させ、興味関心をもって学習する姿勢 (2) 基本的な概念や原理・法則を理解して、化学的な見方を身に付ける (3) 文章、グラフ、図、表を読み取る力 (4) 自身の考えを、文章や図を使って適切に表現する力 (5) 共同学習において、他者と目的に向かって協力する姿勢 (6) 安全に注意して実験観察を行い、実験技能を習得する							
【評価基準・評価項目】 (1) 化学を日常生活や社会と関連させ、興味関心をもって学習できる (2) 基本的な概念や原理・法則を理解して、化学的な見方をすることができる (3) 文章、グラフ、図、表を読み取ることができる (4) 自身の考えを、文章や図を使って適切に表現することができる (5) 共同学習において、他者と目的に向かって協力することができる (6) 安全に注意して実験観察を行い、実験技能を習得する							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	序章 化学と人間生活						
5月	1章 物質の構成 1節 物質の探究						
6月	2節 物質の構成粒子						
7月	1節 イオン結合						
8月	2節 共有結合と分子間力						
9月	3節 金属結合 4節 化学結合と物質						
10月	3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式						
11月	2節 酸と塩基						
12月	2節 酸と塩基						
1月	3節 酸化還元反応						
2月	3節 酸化還元反応						
3月	探究活動						

教 科 科 目	生物基礎	学 年	4 年	単 位	2 単位	担 当	岩永 和美
------------	------	--------	-----	--------	------	--------	-------

【科目の概要】

生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎の授業の中で、基礎的な知識、根本的原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずです。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。

【育成をめざす学力】

興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。

自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。

学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。

資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。

根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。

【評価基準・評価項目】

授業で学習した内容を正しく理解し、これまでの学習内容や身の回りの自然現象との関連付けができる。

基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。自然や生命を尊重する姿勢をもっている。

最新の技術や研究成果について理解を示すことができる。知識や自分の考えを文章で的確に表現することができる。

現在および将来における科学の課題と人間生活のかかわりを考えることができる。

実験データなどをグラフ化したものなどから規則性を読み取ることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

4 月	第 1 編 生物と遺伝子	第 1 章 生物の特徴
5 月		第 1 章 生物の特徴
6 月		第 2 章 遺伝子とその働き
7 月		第 2 章 遺伝子とその働き
8 月	第 2 編 生物の体内環境の維持	第 3 章 生物の体内環境
9 月		第 3 章 生物の体内環境
10 月		第 3 章 生物の体内環境
11 月	第 3 編 生物の多様性と生態系	第 4 章 植生の多様性と分布
12 月		第 4 章 植生の多様性と分布
1 月		第 4 章 植生の多様性と分布 第 5 章 生態系とその保全
2 月		第 5 章 生態系とその保全
3 月		第 5 章 生態系とその保全

教科 科目	音楽 I	学 年	4 年	単 位	2 単位	担 当	佐野 智江
【科目の概要】							
<p>皆さんは小学校で6年間、中学校で3年間、計9年間音楽を受講してきたと思います。そして、これが10年目の音楽の授業となるわけですが、全員必修科目としての音楽の授業は今年度で最後です。そこで、本科目ではまず、日常生活の中において音楽と関わる中で必要と思われる基礎知識を学びます。さらに、様々なジャンルの音楽を紹介することで、個人のもつ音楽の受け皿を大きくし、音楽を愛好する心を育てます。</p>							
【育成をめざす学力】							
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を学ぶ上で必要な基礎知識の習得。 ・音楽を愛好する心の育成。 							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心を持って授業に参加できる。 ・大きな声でのびのびと歌唱表現できる。 ・音楽を学ぶ上での基礎知識を理解することができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月 5月	音名、拍子について 楽譜の歴史について ベートーヴェンについて 日本のポピュラー音楽の歴史について						
6月～ 8月	西洋音楽史 古代ギリシャ～ルネサンス（鑑賞：グレゴリオ聖歌） 日本の歌曲の歴史について 日本の歌曲について「夏の思い出」「この道」「花の街」 実技テスト 期末考査						
9月	世界の歌に親しむ 「ダニー・ボーイ」「おおシャンゼリゼ」「ウィーンわが夢の街」						
10月	ドイツ歌曲について 「Heidenröslein」 西洋音楽史 バロック～古典派 （鑑賞：バッハ作曲「フーガ ト短調」、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」ほか）						
11月 12月	クリスマス礼拝に向けて「ハレルヤコーラス」・クリスマスの讃美歌について 期末考査						
1月 2月	イタリア歌曲について 「Caro mio ben」 西洋音楽史 ロマン派～現代の音楽（鑑賞：ショパン「英雄ポロネーズ」ほか） 音程について 実技テスト 学年末考査						
3月	音楽基礎知識の総復習						

教科 科目	保健体育 保健	学 年	4年	単 位	1単位	担 当	猪 寛子
【科目の概要】 わが国の疾病構造や社会の変化に対応し、健康を保持するためには、ヘルスプロモーションにたいする考え方を生かして健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりを行うことが重要であることを理解し、4学年では、思春期から高齢者まで生涯の各段階における健康課題への対応と保健医療体制や地域の保健・医療機関の適切な活用および環境と食品の保健、労働と健康など社会生活における健康の増進について個人生活のみならず社会生活とのかかわりを含めた総合的な理解を深める。							
【育成をめざす学力】 個人および社会生活における健康・安全について理解。生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための能力の育成。							
【評価基準・評価項目】 ・ 個人の健康を理解し、実生活で活用できる。 ・ 専門的な知識を身につけ、社会生活に役立てることができる。							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	1.オリエンテーション、安全教育						
6月	2.生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性意識と性行動の選択③結婚生活と健康						
7月	④妊娠、・出産と健康 ⑤家族計画と人工妊娠中絶 1学期期末考査（評価）						
8月	⑥加齢と健康						
9月	⑦高齢者のための社会的とりくみ ⑧保健制度と医療費						
10月	⑨保険制度と保健サービスの活用						
11月	3.社会生活と健康 ①大気汚染と健康 ②水質汚濁と健康						
12月	③土壌汚染と健康 ④健康被害の防止と環境対策 2学期期末考査（評価）						
1月	⑤環境衛生活動のしくみと働き						
2月	⑥働くことと健康						
3月	⑦労働災害・職業病と健康 ⑧健康的な職業生活 学年末考査（評価）						

教科 科目	保健体育 体育	学 年	4年	単 位	2単位	担 当	浦元久美子
【科目の概要】							
<p>近年、都市化や生活の利便性による日常生活の体を動かす機会や場所の減少、少子化・高齢化の急激な進展、自由時間の増大等の社会変化など国民意識や価値観の変化の中で、心身ともに健全な生活を営む上で運動やスポーツは不可欠なものになっている。このような運動やスポーツの意義を踏まえ、4学年は高校生活最初の大切な時期に、授業を通して、運動スポーツの楽しさ、喜びを体験できるようにすることが求められた生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うようにする。</p>							
【育成をめざす学力】							
<p>互いに協力して練習や競技が出来るようにするとともに、勝敗についても公正な態度がとれ、健康・安全面に留意して行動できる能力を養うようにする。</p>							
【評価基準・評価項目】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団での行動と規律を守り、実生活や学校生活に生かすことができる。 ・ 基礎的技術の習得とゲームができる。 ・ 個人の基礎体力の向上と運動能力を高めることができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4・5月	1. 体育実技の受け方のオリエンテーション・安全教育 ①オリエンテーション 集団行動（ラジオ体操含む）						
6月	2. 体づくり運動 ①体力テスト（握力・上体そらし・長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ） ②トレーニング実践（体幹トレーニング・自重トレーニング・サーキットトレーニング・コーディネーショントレーニング・リズムジャンプトレーニング） ③分析						
7月	④評価						
8月	3. 卓球 ①オリエンテーション・安全教育②グリップ ③ストローク④サーブ						
9月	⑤評価						
10月	⑥ルール説明および審判法						
11月	⑦ゲーム（シングルス・ダブルス）						
12月	4. 持久走						
1月	①シャトルラン等						
2月	②時間走						
3月	③駅伝大会						

教科 科目	家庭基礎	学 年	4年	単 位	2単位	担 当	内田 絵理香
<p>【科目の概要】</p> <p>現在は男女が協力して家族の一員としての役割を果たし、家庭を築くことが重要になっています。人はどのような生き方をしようとも、日々の暮らしをなくすことはできません。家庭科は人間が生きていくために、自分の生活を自分でデザインする力をつける教科です。一人ひとりが生活の主人公になる力をつけることを目的とし、そのために必要な知識や技術、考え方などを学び、自らの力で生活できる能力を身につけ、自分の生活スタイルを自己決定するだけの基本的な構えをつくっていきます。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集・活用する力。 ・自分の考えをまとめる力。 ・課題に対してさまざまな角度から考える力。 ・生活をよりよいものにしていこうとする意欲や創意工夫する力。 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・子ども・高齢者・食生活についての基本的知識を習得できている。 ・安全に配慮し、手順通りにグループのメンバーと協力して作業することができる。 ・日頃の食生活を見直し、改善しようとすることができる。 ・必要な情報収集・活用ができる。 ・さまざまな視点から情報を分析し、自分の意見をまとめて発表することができる。 ・学習内容に関するスクラップブックを作成することができる。 							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4・5月	<p>1. 人とかかわって生きる</p> <p>(1) 自分らしい生き方と家族</p>						
6・7月	<p>(2) 子どもとかかわる ①子どもを知る ②発達のすばらしさ ③子どもの生活</p>						
8～10月	<p>(3) 高齢者とかかわる ①高齢社会に生きる私たちの暮らし ②高齢者を知る ③豊かな高齢期を迎えるしくみ</p>						
11月	<p>2. 生活をつくる</p> <p>(1) 食生活をつくる ①私たちの食生活</p>						
12月	<p>②栄養と食品のかかわり</p>						
1月	<p>③食生活テーマ学習</p>						
2・3月	<p>④食事の計画</p>						

教科 科目	社会と情報	学 年	4年	単 位	2単位	担 当	高崎 和子
【科目の概要】 誰もが、氾濫する情報をいかに要・不要、益・害であるかを判断する力は重要な力となってきます。また、情報の受け手だけでなく、送り手にもなることを自覚し、さらに情報の光と影の部分を理解し情報とうまくつきあっていくことが必要です。情報活用のルールとマナーを守り、情報化社会に参画する態度を育成していく。							
【育成をめざす学力】 1. 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解する。 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用し、情報を収集、処理、表現する力を身につける。 3. 効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。							
【評価基準・評価項目】 社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解し、自ら進んで情報及び情報技術を活用することができる。 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響や課題について関心を持ち、分析、考察ができる。 情報活用の基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて表現をし、相互評価をすることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな情報を取捨選択し、活用することができる。 ・統計資料、図表、グラフなどを読み取り、分析、考察することができる。 ・目的に応じた表現・プレゼンテーションをし、相互評価ができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月～ 7月	<ul style="list-style-type: none"> ●情報社会 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・身の回りの情報を考える（情報の伝達、情報の表現、情報の活用） ・コンピュータリテラシー （検索エンジンの利用、文書作成の基本、プレゼンテーションの基本） ・マルチメディア作品製作Ⅰ（プレゼンテーション、相互評価） ・メディアリテラシーⅠ（問題解決－1） ●情報の活用と表現（デジタル化） <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル情報の特徴 						
8月～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・数値や文字の表し方 ・音声のデジタル化、画像、色のデジタル化、圧縮の仕組み ・マルチメディア作品製作Ⅱ（プレゼンテーション、相互評価） ●情報通信ネットワークとコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ・メールの利用、ネットワーク、インターネットの仕組み ・メディアリテラシーⅡ（問題解決－2） ・著作権を学ぶ 						
1月～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ●情報安全 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの確保 ・情報社会における法と個人の責任 ●情報の収集、整理と管理 <ul style="list-style-type: none"> ・表とグラフの活用、分析の実際（問題解決－3） 						

教科 科目	英語 コミュニケーション英語 I 英語表現 I	学 年	4 年	単 位	6 単位	担 当	井上・千葉 加瀬・ポール
<p>【科目の概要】英語の4技能である Reading・Listening・Speaking・Writing の力をバランスよく育成することを目指します。コミュニケーション英語 I 4 単位、英語表現 I 2 単位として取り扱います。教科内で上手く連携を図り、できるだけ1つの流れで授業を進めていきます。教科書で読んだり聞いたりして理解したことをもとに、自分の考えを英語で話したり書いたりする活動を行います。特に英語でスピーチをする力をつけていきます。積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢をもつだけでなく、さまざまな問題に疑問を持ち考える姿勢を大切にしてください。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <p>Reading 速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力 テキストを分析的・批判的に読む力</p> <p>Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力</p> <p>Speaking / Writing 与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力</p>							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <p>Speaking：日常的な話題について、ネイティブスピーカーと対話できる。(英検準2級レベル) / 自分自身や身近な話題について、2～3分間のスピーチをすることができる。</p> <p>Writing：身近な話題について、100語程度の英文で、自分の考えや意見を書くことができる。</p> <p>Reading：まとまった量の英文(200 words)を読み、理解することができる。chunk ごとに正しく切って読むことができる。多読教材を全員が1年間に最低15冊読む。</p> <p>Listening：日常的な話題についての英語を聞いて、大意を把握することができる。ネイティブの先生の指示を正確に理解することができる。</p>							
<p>【年間指導単元・内容と学習活動】</p>							
4月	リエンション・辞書・発音記号指導		高校英語基礎		AAA Conversation		
5月	Lesson 1～2		文・文型		↓		
6月	Lesson 3～4		動詞の時制		Speech Presentation 1		
7月	Lesson 4		助動詞		↓		
8月	Lesson 5		態		Speech Presentation 2		
9月	Lesson 5		不定詞				
10月	Lesson 6		動名詞				
11月	Lesson 7～8		分詞				
12月	Lesson 8		関係詞				
1月	Lesson 9		比較				
2月	Lesson 10		仮定法		↓		
3月	まとめ		品詞など			Speech Contest	

教科 科目	聖書	学 年	4年	単 位	1単位	担 当	塩屋 優子
【科目の概要】 今日の私たちが生きている社会，自分との関わりの中で，イエスの生涯とその背景を学ぶ。							
【育成をめざす学力】 A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
【評価基準・評価項目】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 聖書の時代的・地理的背景が理解できる。 ・ イエスの生涯の概略とその教えの内容を把握できる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
4月	自己と自己確認の旅の理解						
5月	ベストセラーとしての聖書 イスラエル民族の歴史としての旧約聖書						
6月	新しい救いの約束としての新約聖書 パレスチナの風土						
7月	誕生の地ベツレヘム						
8月	マリアへの誕生の知らせ						
9月	イエスの誕生の状況						
10月	ヘロデ王の支配 ローマの支配						
11月	洗礼者ヨハネの活動						
12月	荒野の誘惑 弟子の選び						
1月	山上の教え タラントのたとえ						
2月	イエスと富める青年との出会い 愚かな金持ち ペトロの告白						
3月	十字架と復活						

教科 科目	インテグレーション4	学 年	4年	単 位	1単位	担 当	4学年教師
<p>【科目の概要】</p> <p>4 学年では、「自分を知り、改善できる生徒の育成」という学年目標のもと、様々な行事や活動を通して、自己を深く見つめ、新たな興味関心を見出し、自分の将来に向けて考える力を身につけていきます。論理コミュニケーション授業、コラム学習、また学年行事「A I E 研修」を通して、情報収集・分析力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力（文章を書いたり、プレゼンテーションしたりする力）を育成していきます。</p>							
<p>【育成をめざす学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題の発見と情報を収集・分析できる力 ・テーマに関する興味・関心と基本的な知識を身につける力 ・レポート発表のための文章表現力やプレゼンテーションする力 ・根拠を明確にし、説得力のあるスピーチをする力（論理的思考力） ・研究活動に対して、自己評価や相互評価ができる力 							
<p>【評価基準・評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力し、ブレインストーミングやマインドマッピングなどの学習スキルを活用して課題に取り組み、考えを深めることができる。 ・本やインターネットなどから必要な情報を集め、根拠を明確にし、主張をわかりやすく説明することができる。 ・プレゼンテーションに向けて情報を論理的に考察し、わかりやすい資料を作成することができる。 ・指示を正しく理解し、適切な言葉で文章表現をすることができる。 ・自分や他者の成果内容を正しく評価し、それを受け入れ、改善することができる。 							
【年間指導単元・内容と学習活動】							
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理コミュニケーション ・ コラム学習 ・ 進路について考える～文理選択研究、職業調べ など 						
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理コミュニケーション ・ コラム学習 ・ 学部学科調べ学習～発表 ・ 将来について考える～My Dream 原稿作成 						
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理コミュニケーション ・ コラム学習 ・ 将来について考える～My Dream 原稿作成～完成、発表 						